

葎木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

アルプホルン

「アルプホルン」とは、スイスの木管楽器ですが、携帯電話のなかった時代にアルプ（鉱山の自然的法「牧地」と村。また村と村などの連絡にも使われたラッパだそうです。

日本では1989年玉川アルプホルンクラブが始まりで全国24都道府県で11のアルプホルンクラブが活動しているそうです。

アルプホルンの製作は環境創造局の小山さんのすすめで間伐材を利用して作れるからということで、作り方も教えると現寸大の設計図を持ってきてくださいましたので、最初7～8の方が作り始めました。活動日（土）は作れないのでセンターの許可を得て水曜日にホルンを作る日としました。

H15年2月4日から（水曜日の活動です）ホルン作りが始まりました。西ヶ谷、西村、佐藤の3人が1年ぐらいかけて出来上がりましたので吹き方の練習もしました。横浜市児童遊園地でイベントがあり、そこでアルプホルンコンサートをやるからと小山さんの仲間6人と西ヶ谷、西村、佐藤の3人が加わり9人で演奏会をやり1日中楽しみました。

その後宮下、古田、鬼久保さんが加わりホルンが出来上がった少し後に三田さんが長さが半分のホルンを作りました。

H16年6月19日（土）昼休み、炭小屋にアルプホルン奏者の森泰さんが来られ吹奏と吹き方のコツを伝授していただきました。

飯塚チーフレンジャーが演奏会企画事務所のアルマジムカの小川圭一さんにZFC会員手作りアルプホルンのこととお話になったことがきっかけで小川さんが森さんを紹介して下さったというわけです。

H17年11月11日群馬県川湯村でアルプホルンコンサート、H18年11月23日群馬県大胡町グリーンフラワー牧場わくわくネイチャースクールでもアルプホルンは人気がありました。子供から大人まで吹いて音の出たときの喜びが大変楽しそうでした。

アルプホルン作りをやりませんか、作り方教えますよ！ ただし水曜日に限ります。

ホルン作りをしていると何を作っているのですか・・・といろんな方が炭小屋に入ってきて休んでいました。いろいろな方が気軽に立ち寄れるような場所に我々が活動している「炭小屋」を交流の場にしたいものです。

佐藤榮一

1. 2013年1月の主な活動報告

- ① 12月19日(水) 9名 桜材運搬、竹酢液蒸留、SF 用材作成等
- ② 12月22日(土) 12名 炭小屋整理、友の会望年会準備等
- ③ 12月23日(日) 13名 友の会望年会
- ④ 1月12日(土) 20名 杉伐倒、竹林整備、製材、炭出し、蒸留等
- ⑤ 1月16日(水) 6名 SF 準備
- ⑥ 1月19日(土) 22名 杉伐倒、杉皮むき、製材、炭材作り等

2. 運営会<1月19日>報告

- ①2月16(土)・17日炭焼きの実施についての確認
- ②SF の準備状況について報告
- ③雑誌「百歳万歳」の取材は1月26日に確定
- ④伐木の作業基準の中に記載されている「資格」の項について
解釈が分かれるためこの項を削除し「その他」の項で規定することになった

3. 2月度の主な活動予定

- ①2月2日(土) シラカシ伐倒(手切り)、炭材作り、竹林整備、SF 準備
- ②2月9日(土) シラカシ伐倒(チェーンソー)、製材、SF 準備
- ③2月16日(土) 炭焼き、製材、ホダ木搬入、運営会
- ④2月17日(日) 炭焼き、ねらしのイベント
- ⑤2月23日(土) シラカシ伐倒(手切り)、竹林整備、SF 準備

以上